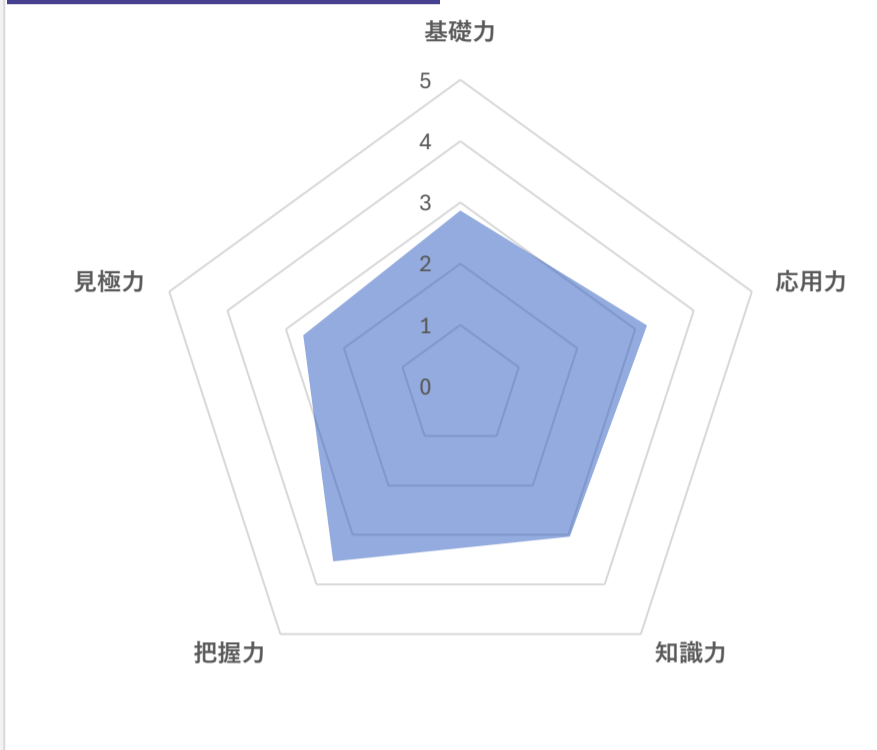


総合分析

試験区分	一般（後期）
------	--------

制限時間	60分（理科2科120分）	大問数	全3問
------	---------------	-----	-----

合格に要する能力（5段階）

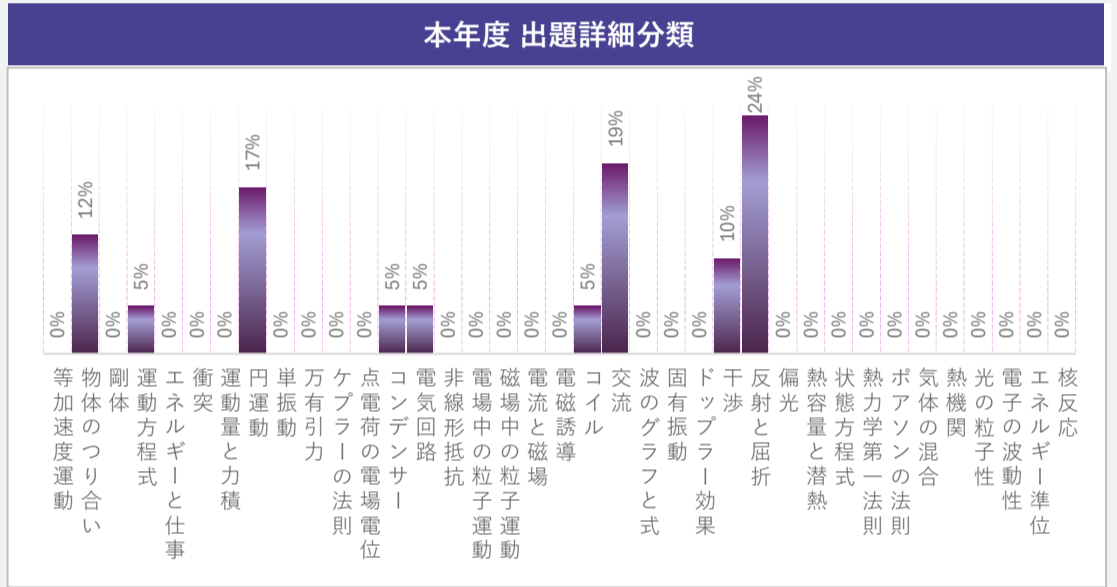


合格に要する能力（5段階）		
基礎力	2.7	原理についての理解
応用力	3.0	演習経験による慣れ
知識力	2.8	用語を正確に覚えているか
把握力	3.3	臨機応変に状況を把握する力
見極力	2.5	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	33%
電磁気学	33%
波動	33%
熱力学	0%
原子物理	0%

本年度 解答形式	
穴埋め記述	100%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	円運動と拘束
第2問	屈折と干渉
第3問	交流回路



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算なし

特記事項 一部で曖昧な出題が見られた

総合評価

難度	2.9	最難を5とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率（予想）	73%
分量	44分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや少ない	高い正答率を要する	

**入試の特徴と対策**

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

**入試から見る 大学が求める学生像**

複雑な難問を出題しているつもりはないのだろうが、一部題意の不明瞭な問題があり、見当がつかない限り、完答は難しいかもしれない。しかし演習量が多ければ概ね見当がつくと思われる。すべての大問において後半が難しくなっており、実力を測ろうとする気持ちがみられる。時間にはかなりの余裕があるため、すべての問題から逃げることはできない。総じて、特別な才能より堅実に研鑽を積もうとする学生を評価する出題となっている。